

算命学中庸

【初年】 36 回目

36 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【二星相関変化法】 ①

【初年】 36 回目【二星相関変化法①】 01

□ 二星相関変化法 (にせいそうかんへんかほう)

りやく
略して——【二星変化法】ともいいます。

参考・相関そうかん [一方が変化すれば他方も変化するというように、相互そうごに関係しあっている意] [相互に関係し合い、互いに影響し合う関係の意]

皆さまはすでに、十大主星それぞれの意味合いを一通りまなびました。

十大主星 ①

May-09

貫索星 かんさくせい (守備本能の陽) (五徳は福)

独立独歩、頑固で自我心が強くマイペース、一度決心したことは簡単には変えない意固地な面を持ちます。独立心は旺盛で集団行動よりも単独行動を得意とする個人主義です。周りを気にせず自分本位に物事を進めるために強調性には欠けやすい面があります。

石門星 せきもんせい (守備本能の陰) (五徳は福)

協調性・協和性に富む。人付き合いが良くて人をまとめていくのが上手です。集団を作りやすく集団の中で統率力や説得力を発揮します。内面に反骨精神を持ち横社会で活躍しやすく縦社会を無視する面を持ちます。政治力の星でもあります。

鳳閣星 ほうかくせい (伝達本能の陽) (五徳は寿)

穏やかでのんびりした性格で無理せずに自然に生きていこうとする質は環境に順応しやすく無欲的な特徴を持ちます。しかし内面の神経は細かくて観察力があります。遊び心があり趣味は多才で芸術面にすぐれます。

調舒星 ちょうじょせい (伝達本能の陰) (五徳は寿)

一人でものを考えるたりする事が好きで孤独の星といわれます。多情多感で空想力があり、心理面の葛藤が大きく神経質です。反発心を内に秘めて本心を出そうとしませんが、聖職者の情愛にも等しい暖かさも有します。

禄存星 ろくぞんせい (魅力本能の陽) (五徳は財)

親切でやさしくて人当たりが良いので人気を得やすい質をもちます。内面より外面が良くて愛情・奉仕の星ですが、一度裏切られると二度と温情をみせない面を持ちます。財を動かすのが上手で商才があります。

十大主星 ②

May-09

司禄星 しろくせい (魅力本能の陰) (五徳は財)

平和を好み、堅実で家庭的な星といわれ、努力をいとわない辛抱強さは蓄積となり、その永続性は周りの信用を得やすいのです。ただ実力を発揮するのに時間を要しますがその信頼は簡単には崩れないので不運を切り抜ける質ともなります。考え方は妻の如く現実的で損得の感覚に秀でます。

車騎星 しゃきせい (攻撃本能の陽) (五徳は官)

個人の行動力で前進力があります。自分の思いを直ぐ行動に移そうとする質をもちます。男性的な闘争心を持つために負けず嫌いで責任感が強くて、その行動に損得はなく一途です。動中の思考といわれ行動が必要です。

牽牛星 けんぎゅうせい (攻撃本能の陰) (五徳は官)

集団の行動力は団体や組織で発揮されます。統率・規則を重んじて真面目で名誉心が強いです。出処進退をわきまえるので逃げ上手にもみられます。

個人の才能を集団に和すための隠忍自重の精神力を養うためには歳月を必要としますが、それは集団を卒いる能力となります。女性は家庭的です。

龍高星 りゅうこうせい (習得本能の陽) (五徳は印)

改革の星といわれ伝統に縛られない知恵は好奇心が旺盛です。それは個性的な創作世界をつくります。現状にあきたらず変化を好む個性的な創造力は社会生活の向上の源になります。離別・放浪、外国の星といわれます。

玉堂星 ぎょくどうせい (習得本能の陰) (五徳は印)

学問の星といわれて頭を使うことが好きです。伝統的な分野における創造力・企画力に秀で、保守的で緻密で優雅です。子供や目下の面倒見が良くて母性的で慈愛を有する星です。学者・研究者としての質を備えます。

【二星相関変化法】

二つの星の組み合わせによって、その星の意味合いとか、星の出方が多少変化するのは、^{でかた}星の出方が多少変化するのです。

二つの星の組み合わせにより、二つの星の意味合い、または、星の出方が多少変化する。^{でかた}

参考・出方〔出る様子・方法、ある事柄に対する対処のしかたの意〕

〔たとえば〕人体図に頑固な星〔貫索星〕をもっている人でも、そのほかに、何の星をもっているのかによって、その“頑固”の出方が少し変化します。^{がんこ}

人体図に独立独歩の頑固星〔貫索星〕をもっている人も、^{わり}割と物わかりのいい頑固な人もいますし、うんと意地を張って強情な頑固な人もいます。

その頑固という意味合いは変わらないのですが、その出方は多少変わってきます。

参考・頑固〔周囲の反対とか、情勢の変化などを無視して、自分の考えや態度を貫き守ろうとするさまの意〕

参考・物わかり〔事情・状況、人の意見・立場などを理解する意〕

〔たとえば〕㊤さんが〔家族に接するとき〕と〔他人に接するとき〕とでは、おなじ人物（おなじ性質・性格）なのですが、多少その出方は変わってきますよね。

あるいは、㊤さんが〔Bさんといるとき〕と〔Cさんといるとき〕とでは、多少（性質・性格）の出方が変化することがあるでしょう。

十大主星もそれとおなじように、おなじ星をもっている人でも、ほかの星との組み合わせで、若干^{じゃっかん}（ある程度）意味が変わってきたりするのです。

そのような意味合いを内在^{ないざい}する【二星相関変化法】は、少し高度な技法といえます。

それゆえに、少し難しいところもあるかと思いますが、二星変化法をつかうと、より詳しい性格判断ができます。

参考・内在〔ある事物・性質が内部に含まれている意〕

⇒【二星相関変化法】を学びますが、少し高度な技法と
いうことを意識して進んでいくとよいでしょう。

星と星の相関には「法則＝八つの決まり事」があります。

この「法則」は二星変化法に限った話ではありません。

これから、人体図を観ていくときにも、法則は度々出たびたびて
きます。

【二星相関変化法】は「8つの法則」を基として、出来上
がったのです。

「8つ」を覚える必要はありませんが、どのような法則な
のか、大まかに理解しておくといよいでしょう。

☉ 法則は〔8つ〕あります。

☞ 法則〔1〕と〔2〕は一緒に説明します。

〔1〕（＋と－）⇒ 和（まとまりやすい）

〔2〕（＋と＋）⇒ 反発（まとまりにくい）

こういう法則があります。

法則〔1〕陽と陰の組み合わせ ⇒ 『和』が生じます。

法則〔2〕陽と陽の組み合わせ
陰と陰の組み合わせ } **反発します。**

人体図を見たときに……いろいろな星が五星あっても、
陽の星〔陽星^{ようせい}〕と陰の星〔陰星^{いんせい}〕の二つのあいだに『和』
ができます。

陰陽の相関における、（陽）と（陰）の組み合わせは、男と女の
ような組み合わせのようにまとまります。

それゆえに『和が生じる』とっています。

星の（陽）と（陰）の組み合わせ ⇒ 和が生じるので、
まとまりやすいのです。

❖ 電気の性質として、+の電気と、-の電気とであれば、
まとまって電流が滞^{とどこお}りなく円滑に流れます。

❖ +の電荷をもっているものと、+の電荷をもったもの
は、まとまらないで反発します。

磁石も、おなじN極同士だと反発します。S極同士だと反発します。

星と星のあいだにも、このような性質があります。

人体図を見たときに……いろいろな星がありましても、
陽の星〔陽星^{ようせい}〕と陰の星〔陰星^{いんせい}〕の二つのあいだに『和』
ができます。まとまりやすい。

〔陽星〕と〔陽星〕の二つのあいだに『反発』が起こり
ます。まとまりにくい。

このように考えていきます。

☞ 法則〔3〕〔4〕〔5〕についてです。

ここはチョットわかりにくいかと思いますが……人体図には十大主星が五つ載ります。

十大主星の五行（木火土金水）は決まっています。

〔貫索星〕〔石門星〕の五行は木性です。

〔鳳閣星〕〔調舒星〕の五行は火性です。

〔禄存星〕〔司禄星〕の五行は土性です。

〔車騎星〕〔牽牛星〕の五行は金性です。

〔龍高星〕〔玉堂星〕の五行は水性です。

それゆえに、十大主星の各星は『相生』『相剋』『比和』いずれかの関係になるわけです。

そして、十大主星の各星は（陽）と（陰）の質も備えています。

〔貫索星〕は陽星です。〔石門星〕は陰星です。

〔鳳閣星〕は陽星です。〔調舒星〕は陰星です。

〔禄存星〕は陽星です。〔司禄星〕は陰星です。

〔車騎星〕は陽星です。〔牽牛星〕は陰星です。

〔龍高星〕は陽星です。〔玉堂星〕は陰星です。

法則〔3〕『相剋』 動的現象

星同士が相剋になると動的現象

法則〔4〕『相生』 静的現象

星同士が相生になると静的現象

法則〔5〕『比和』 静止

星同士が比和だと静止する

☞ 法則〔3〕『相剋』 動的現象

『相剋』は、やっつけるような関係ということが^{もと}基でした。

(火剋金) あるいは (金剋木) でも、星同士が相剋の組み合わせになっている場合には、(金剋木) の相剋であれば、金は固いから、木性を切ってやっつけてしまいます。

(火剋金) の相剋であれば、火は金性を溶かしてしまふことができると思います。

星同士も『相剋』になっていると〔相手をやっつけるような〕端的にいえば〔星同士がケンカをしているような〕そういう状態になります。

自分の人体図のなかで〔星同士がぶつかり合う〕——

〔喧嘩をしている〕ということは、その星は**動的現象**を起こしていると考えます。

動的ということで〔じっとおとなしくしてられない〕

〔落ち着いてはられない〕状態です。

星と星がケンカをしているわけですから、人間でいえば、感情的にもなりますし、精神機能も活発になるでしょう。

このような星の姿を「**動的**」と表現しているわけです。

『相剋』 動的現象 ⇒ 活発になる／感情的になる



葛藤が生じる

自分の人体図のなかに『相剋』の組み合わせがあれば、人間の心のなかで、星同士が活発にうごいて、ケンカし合っているようなものです。

つまり、星の動的現象によって、自分の精神状態が興奮して、活動的になっていると考えるわけです。

そのような精神のうごきがあると葛藤が生じてきます。

☞ 人体図には〔星〕が5つでてきます。

『相剋』の組み合わせがいくつもある人がいます。

相剋がいくつもあると、星と星が活発にうごきますから星のもつ意味合いとは別に、感情的で葛藤が多くなる人です。

『相剋』が〔良いとか〕〔悪いとか〕論じていませんよ。

☞ ^{かつとう}葛藤^{ようそう}の様相はさまざまです。

☞ つぎのページの人体図を、ノートなどに書き取り……
相生の印（—→）と 相剋の印（—^か×→）を描き加えるとよいでしょう。 ➡

〔たとえば〕禄存星であれば、人体図の横線・縦線の^{わく}枠を描いて、その枠内に 禄 と書くだけです。

わかればよいのです。

* ウォルト・ディズニー 1901-12-5

	禄存星	天庫星
石門星	牽牛星	鳳閣星
天将星	石門星	天報星

* フィンセント・ファン・ゴッホ 1853-3-30

	牽牛星	天印星
禄存星	玉堂星	調舒星
天胡星	玉堂星	天恍星

* 本田宗一郎（ホンダの創業者） 1906-11-17

	調舒星	天貴星
車騎星	石門星	禄存星
天堂星	禄存星	天極星

＊ 麻原彰晃 1955-3-2

	調舒星	天印星
車騎星	鳳閣星	牽牛星
天南星	車騎星	天胡星

人体図を見ると、相剋だらけの宿命という人もいます。

〔良いとか、悪いとか、論じていません〕

そういう人体図の人であれば、感情的になりやすい人、心のなかに葛藤が多くなる人と考えます。

そのように占うことになるわけです。

あなたがなにかを創作しようとするとき、そこには葛藤が生まれるのではありませんか——あなたの作品は葛藤の結晶といえませんか……。

「鬼滅の刃」葛藤の世界を想い描いたエンターテインメント作品です。

☞ 法則〔4〕『相生』についてです。

相生は静的現象です。

『相生』 静的現象 ⇒ 鎮^{しず}まる
↓
落ち着く

『相生』は助けるような関係ですから、性格や気持ちが落ち着くと考えます。

参考・性格〔各個人に特有の、ある程度持続的は感情や性質〕

普通……人間は、相手に助けてもらったとか、あるいは、相手を助けたり、相手とお互いに助け合ったりすると、心が^{おだ}穏やかになって、落ち着いてくるし、気持ちが鎮まる、心にやすらぎを感じる。そのような現象が起るはず
です。星のうごきもおなじです。

人体図のなかに、相生関係がいくつもあるような人は、穏やかで、落ち着きがある人、気持ちにゆとりがある人というふうに、占うことができます。

⇒ 法則〔5〕『比和』についてです。

「静止」と書きましたように、『相生』『相剋』のいずれでもないわけです。

『比和』 静止 ⇒ 動的・静的のいずれでもない



ただ単^{たん}に、その本能が強まる

比和の場合は〔心が鎮^{ちんせい}静する〕とか〔心が活発になる〕とかのどちらも起きません。ということになります。

『比和』というのは“単にその本能が強まる”と考えて頂ければよろしいです。

五本能のなかで、おなじ本能の星同士を『比和』といいます。

【初年】 5回目【生剋比論】に記述がありました。

貫索星が二つあるとか、おなじ五行の貫索星（陽）と 石門星（陰）があるとか、このようにおなじ本能同士の組み合わせが『比和』です。貫索星と石門星は「習得本能」の星です。

人体図のなかにおなじ本能の星がいくつもあれば、当然、その本能は強まります。

☞ チョット難しいかも知れません。

『相生・相剋・比和』の星同士のあいだに「通関 つうかん」という関係があります。

「通関」ぜひ覚えておいて頂きたいのです。

「通関」は、これからたびたび出てきますが、占いをするうえで必要になります。

通関の役割は『相剋』を『相生』へ^か変えるものと考えてもよいでしょう。

相剋関係の星のあいだに入って、相剋の状態をやわらげるものです。

相剋関係の星のあいだに入って、相剋をやわらげるもの。

(相剋を相生に変えるもの)



つうかん

通関

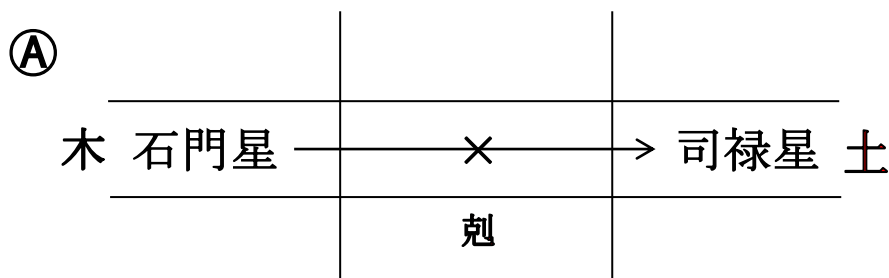
通関の役割を担^{にな}う星^{ほし}であれば、通関星^{つうかんせい}といたりしますが、**通関**と覚えておいていただきたいのです。

通関はこれから^{たびたび}度々でできます。

上級になるほど、つかうようになります。

通関という言葉と意味を覚えてください。

〔たとえば〕人体図に〔石門星〕と〔司禄星〕をもっている人がいるとします。

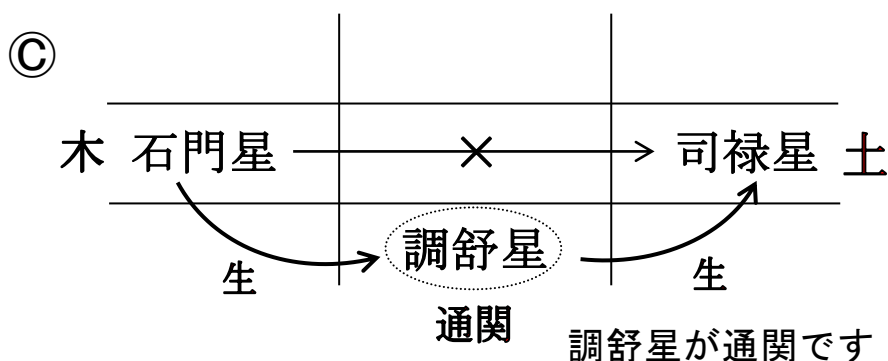
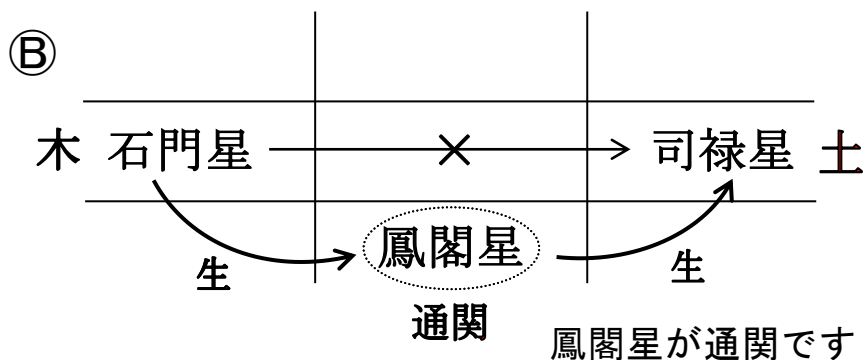


石門星は五行でいえば木性で、司禄星は土性になります。
この二つの関係は（木→×土）で相剋になります。

木は土のなかに根っこを張って、土の中の養分や水分を奪います。木性が土性を相剋する姿です。

①人体図の〔石門星〕と〔司禄星〕は相剋関係です。

相剋は両星が活発りょうせいになりますので、心の働きとか、感情のうごきが高まるといえます。



人体図 ② の相剋のとき、どこかに 鳳閣星 があれば、
 (木→火) と [石門星] が [鳳閣星] を生じて、つぎに
 (火→土) と [鳳閣星] が [司禄星] を生じていきます。
 つまり、(木—×→土) という相剋関係のあいだに、火性
 が入ることによって、(木→火) と木が燃えて火になり、
 火によって燃え尽きた燃殻もえがらは (火→土) と土になる。と
 いう相生関係に変わってしまうわけです。

② [鳳閣星] は火性の (陽) であり、③ [調舒星] は火性の (陰)
 です。五行はおなじ火性ですから、どちらも通関になります。

[鳳] あるいは [調] が、(生) の役割をして通関になります。

㊸と㊹の人体図において、「石門星」あるいは「司禄星」が、人体図のどの場所にあっても構いません。

「鳳閣星」か「調舒星」の火性があれば通関です。

おわかりになりますか……？

⇒ ここでは「十大主星」ではなくて、五行で『相剋』を書きますよ。

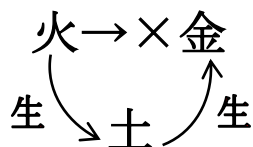
㊸ (火→×金) という相剋があるとします。

(火が金を溶かしてしまいう相剋) です。

このときに、火性と金性のあいだに入り込んで、火と金の関係を相生関係に変えてくれる五行は 土性 です。

(火→土→金)

火と金の相剋関係の人体図に、土性の星があれば……



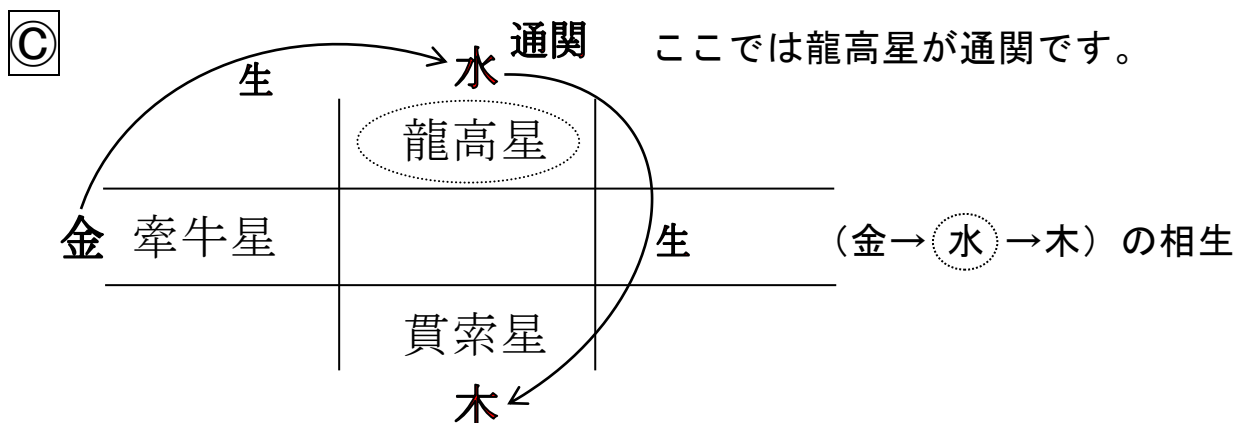
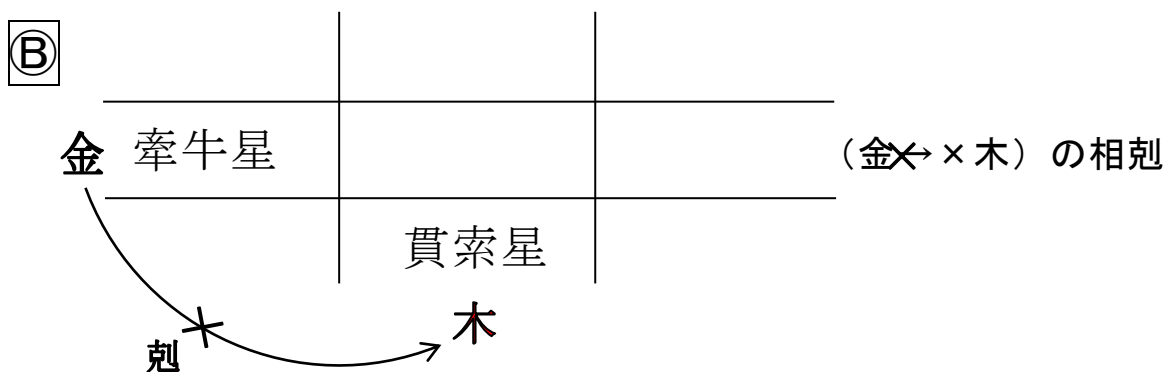
(火→土) そして (土→金) というように、(火と土と金) 三つの関係が相生で結ばれます。

(火→×金) の相剋に、土性が入り込むことによって、

(火→土) (土→金) の相生関係に変わってしまいます。
 この状況は、まるで「金性をやっつけている——ケンカしているようなところ」へ 土性 ^{ちゅうさい} が仲裁に入ってきて、二人を仲直りさせる。この役割を担うのが通関になです。
 一つの相剋関係を和らげるには、必ず一つの通関が必要です。

そうしますと、(金→×木) の相剋関係は、金性が木性を切ったり、傷つけたりして、木性をやっつけてしまいます。

Ⓑ (金→×木) という相剋の場合、何が通関になるのかといえ
 ば水性です。⇒「龍高星」か「玉堂星」で Ⓒ になります。



『相生関係』と『相剋関係』の成り立ちが——まだ、ピンと来ない生徒さんもおもいらっしやると思います。

㊦ (金→×木) の相剋のときに、㊣ のように龍高星の水性があると、(金→水) (水→木) と相生になります。ここでの相剋は、〔龍高星〕あるいは〔玉堂星〕の水性が通関になってくれます。

つまり (金→×木) の相剋関係を (金性が水を生み出して、水が木を育てる) という相生関係に変えてくれます。

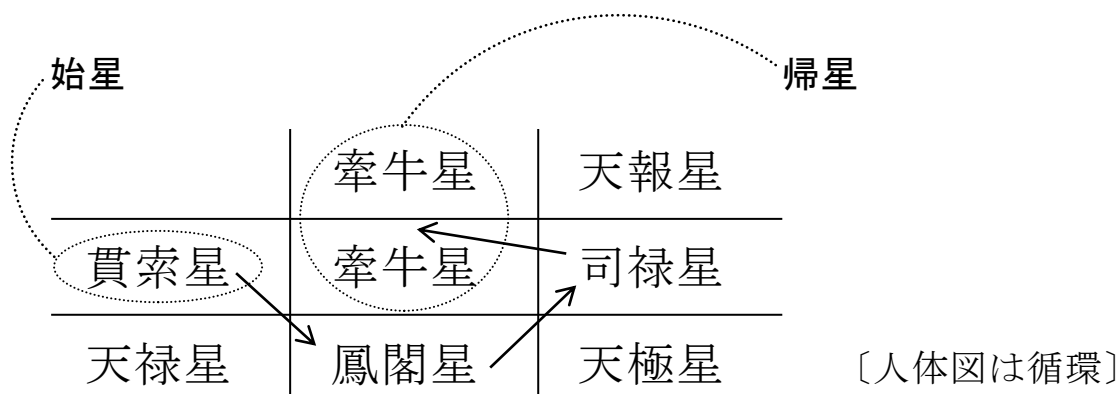
通関はこのような仲介ちゅうかいの働きをしてくれます。

(どの相剋) にも、必ず1種類、通関になるものが存在します。ただし……人体図に通関の星がある人もいれば、その星がない人もいます。個々の人体図によって異なります。

通関の観方は、後あとでまた出てきますが、人体図に通関が(ある) (ない) を見極めることみきわで、相剋の強弱の程度を測ることができます。この人は通関があるから〔強い相剋ではなく、弱い相剋〕だとか、この人体図は通関がないから〔相剋が強い〕とか、そういうふうに観ていくようになります。

「通関」という言葉と意味合いを、ぜひ覚えておいて頂きたいのです。

* マリリン・モンロー 1926-6-1



マリリンについては【人体図純濁法】にも出てきました。

ここでは「通関」についてですが、(木→火→土→金) というように、この人体図は相剋する星が無いので星が循環じゅんかんします。

木性の〔貫索星〕からはじまって〔鳳閣星〕と〔司禄星〕を通過して〔牽牛星〕で止まっています。

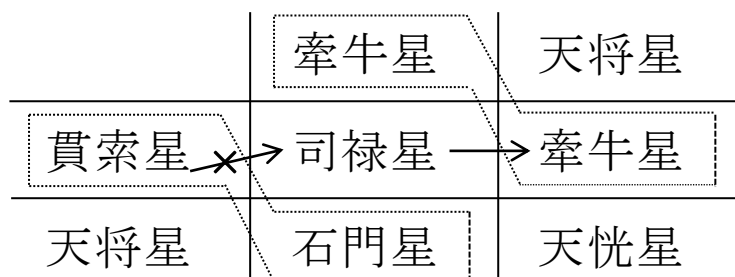
この人体図で通関の役割を果たしているのは〔土性の司禄星〕です。〔司禄星＝土性〕がなければ、星が循環しないために、名誉の星〔牽牛星〕へたど辿り着けません。

マリリン・モンローが大女優ということであれば名誉です。

端的に言えば、彼女の人生の目標は〔名誉・名声〕であったともいえるわけです。

算命学は、人体図のなかで始まる星を〔始星〕しせいといい、人体図のなかで止まる星を〔帰星〕きせいといいます。

* メーガン妃 1981-8-4



主星の〔司禄星〕から（土→金）と〔牽牛星〕で止まります。その意味では名誉を手に入れたといえます。

〔貫索星〕が〔司禄星〕を相剋しています。

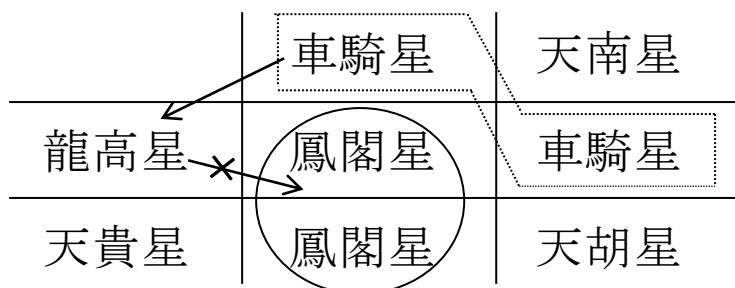
〔鳳〕か〔調〕の火性、あるいは〔龍〕か〔玉〕の水性があれば、星は循環します。

（木→火→土→金）または（土→金→水→木）

この人体図には、五星を循環させる**通関**が無いのです。

〔それが良いとか、悪いとかを論じていませんよ〕

＊〔チャゲ&アスカ〕 アスカ（宮崎重明） 1958-2-24



通関となる〔禄存〕か〔司禄〕あれば（火→土→金→水）と星は循環しますが、アスカの人体図に土性はないです。彼が舞台上で動きまわるパフォーマンスは〔車騎星〕です。この人体図には〔水火の激突〕という、〔龍〕と〔鳳〕の七殺があります。アスカの葛藤で歌の原点です。

「マリリン・モンロー」 「メーガン妃」 「アスカ」
三人の人体図を書きました。

「通関」ということで話を進めてきました。

それらの星の用法などは、^{あとあと}後々、出てきます。

それを学んでいくうちに、理解できるようになります。

「通関」については、一応ここで終わります。

⇒ 法則〔6〕についてです。

〔5〕では「比和する星は静止する」とありました。

〔6〕は『比和』の続きとおもってください。

〔6〕『比和で^{どうせい}同星』
『比和で^{いんよう}陰陽』

おなじ『比和』でも、比和で^{どうせい}同星の場合と、比和で^{いんよう}陰陽の場合があります。ゆえに、二つの分け方があるのです。

そこには、つぎの法則があります。

『比和で同星』の場合は、貫索星の性質が少し加わる。

『比和で陰陽』の場合は、石門星の性質が少し加わる。

つぎの頁に、① と ② 二つの人体図を書きました。➡

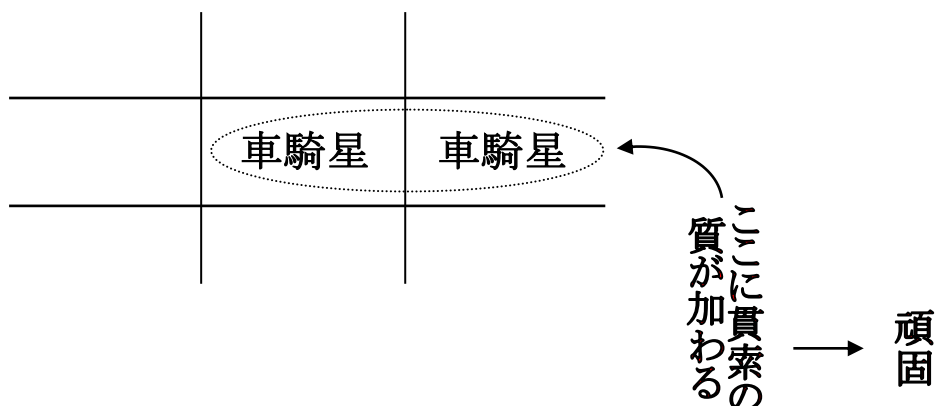
①



〔車騎星〕は人体図のどの場所あっても構いません。

理解しやすいように、① ②のどちらも〔車騎星〕が主星になっていますが、②には〔車騎星〕が2個あります。

②



②の人体図は比和です。

〔車騎星〕〔車騎星〕という^{どうせい}同星（おなじ星）があります。

②のように、複数の同星があると、ここには〔貫索星〕がもつ質の《頑固さ》が加わります。

つまり、人体図に同星がいくつもあると、頑固な人物になって行くわけです。

②には〔車騎星〕が2個ある人体図を書きましたが ➡

〔たとえば〕車騎星が3つあるとか、4つもあるとか、おなじ星がいくつもある人体図の人物もいるわけです。あるいは——〔禄存星〕がいくつもあるとか、〔鳳閣星〕がいくつもある。とかでも構いません。

そうしますと、おなじ星がいくつもあるということは、おなじ性質の星ばかりが重なるわけです。

〔その星の質が倍加する〕〔その星の質が強固になる〕ともいえますし、〔星の質がしっかりした状態になるので、かたく頑なになる〕ともいえます。

それゆえに“頑固”がんこという質が加わることになります。十大主星どの星にも加わります。

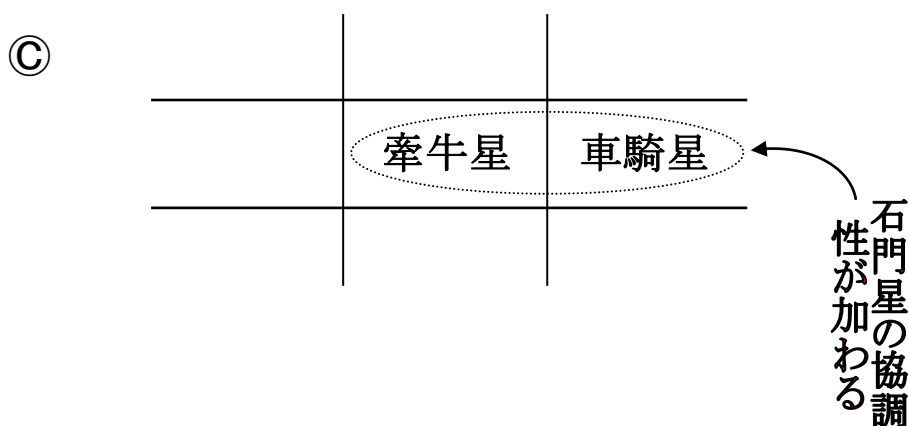
〔たとえば〕鳳閣星は“おだ穏やかなで自然体の星”なわけですが、〔鳳閣星〕がいくつもある人体図というのは、

〔穏やかな鳳閣星がここにある〕〔穏やかな星がここにもある〕〔ここにも穏やかな鳳閣星がある〕というふうに、いくつもの穏やかな星が重なっていると、“その質にこだわる”こしゅうというか“その質に固執する”というか、それなりに頑固な人になっていきます。〔鳳閣星〕は穏やかなのですけど——〔うんと穏やか〕〔いつも穏やか〕だとしたら、それはそれで

“頑固な” という意味になってくるわけです。

つまり、人体図に同星が複数あるとすれば、〔貫索星〕のもつ“頑固さ”が少し加わります。ということです。

⇒ 〔牽牛星〕と〔車騎星〕はおなじ五行の金性ですから、『比和』になります。この関係は（陰）と（陽）です。陰星と陽星の場合は、〔石門星〕の協調性が加わります。



🔍 07頁 ⇒ ⑧ 8つの法則があります。ということで……、

〔1〕（+と-）⇒ 和（まとまりやすい）

〔2〕（+と+）⇒ 反発（まとまりにくい）

〔1〕の法則（-と+）のあいだに 和 が生じます。

〔牽牛星〕と〔車騎星〕の『比和』は、（陰）と（陽）の関係で

すから、^{あいわ}相和す（互いに仲良くする）ことになります。➡

そこには“協調性”が存在するわけです。

自分のなかに“誰かと和合してまとまろう”とする質が加わりますから、協調・協和に対処できるような人物になります。

そういう意味になるわけです。

⇒ 法則〔7〕〔8〕は『相剋』についてです。

法則〔1〕〔2〕の続きが〔7〕〔8〕とおもってください。

〔1〕（＋と－）⇒ 和（まとまりやすい）陰陽が異なる同士の相剋

〔2〕（＋と＋）⇒ 反発（まとまりにくい）おなじ陰陽同士の相剋

〔7〕（陰）と（陽）の相剋 ⇒ **弱い相剋**

〔8〕（陰）と（陰）の相剋 }
（陽）と（陽）の相剋 } **強い相剋**

〔7〕と〔8〕二種類の相剋があります

陰と陽が異なる同士の相剋は、二つの星がまとまろうとする性質、つまり『和』ができていますから、強い相剋にはならないのです。

それゆえに、陰と陽の相剋の場合は「弱い相剋」です。
というふうに考えます。

『相剋』も（陰同士）の相剋 と（陽同士）の相剋があります。

おなじ（陰と陰）とか、おなじ（陽と陽）の相剋の場合は、〔反発が生じてまとまりにくい〕ということでした。

（陰と陰）あるいは（陽と陽）であれば、お互いのあいだに反発が生じます。

まずは反発が生じました——そこへ『相剋』が加わるということは、かなり強い相剋になるわけです。

〔車騎星〕は（陽星）で 五行は金性です。

〔貫索星〕は（陽星）で 五行は木性です。

〔車騎星〕と〔貫索星〕の相剋は、（陽）同士の相剋関係で（金→×木）の姿です。

（陽）の金性が、（陽）木性をやっつける関係です。

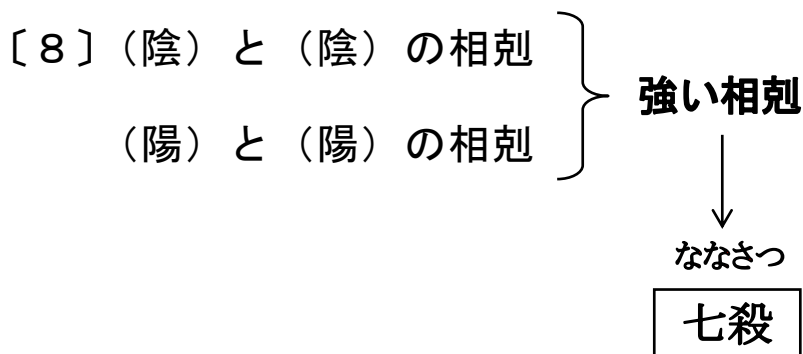
そこには（+）と（+）の相剋ですから、反発が生じています。

そして『相剋』です。

そうしますと、反発と相剋の度合いは“とても強い”ということになります。激しい相剋です。

☞ ここで、一つだけ覚えていただきたい名称があります。 ➡

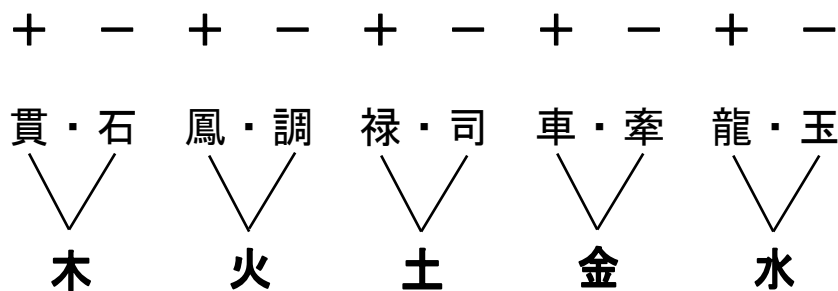
☞ ここで、一つだけ覚えていただきたい名称があります。
この強い相剋を、算命学で「七殺 ななさつ」といいます。



七殺については、十大主星の頭の一文字だけ、10個を並べて書いて説明しますので、おなじようにノートなどに書いていただきたいのです。 ☞ 覚えるための練習です。

ななさつ
「七殺」は、これからつかうことになります。

十大主星を横書きに順番に書きます (縦書きもおなじです)。



十干は (陽陰) で二個ずつ、五行 (木火土金水) の順番に並でいます。

〔貫索星〕〔石門星〕 木性です。

〔鳳閣星〕〔調舒星〕 火性です。

陽と陰でいえば、左から+-・+-・+-・+-・+-の順に並んでいます。

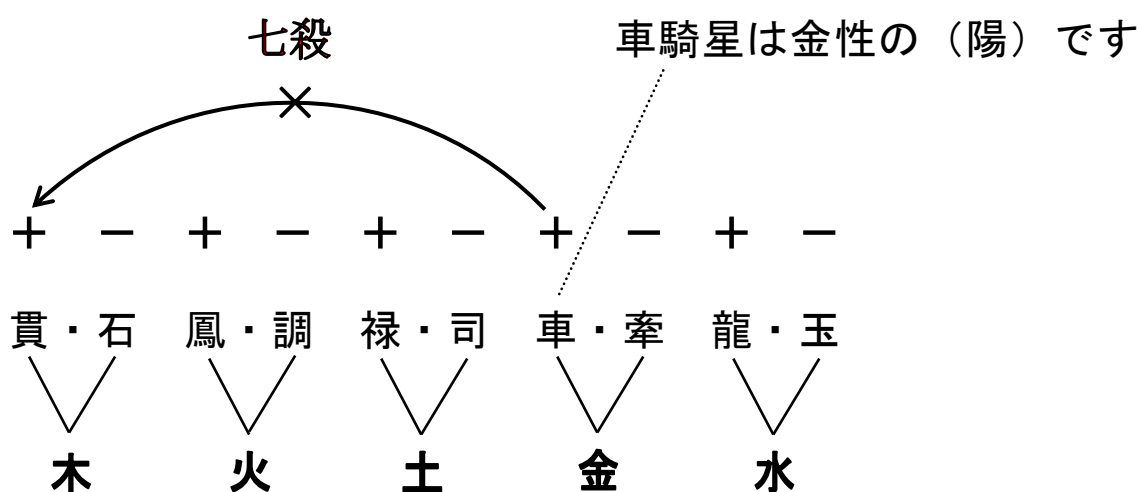
そうしますと、相剋される一つの星が、どの星から強く相剋（七殺）されるのかということです。

〔七殺される星〕 を見るときには……貫索星であれば、

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ——左から⑦番目が車騎星です。

〔貫索星〕 から七番目の〔車騎星〕 に相剋されるときは、必ず、強い相剋になっています。これは法則です。

七番目の星に、剋くされるときは、必ず強い相剋になっている。



(金→×木) と、車騎星が貫索星を剋くしますが、貫索星は木性の陽ですから、陽と陽の相剋になっています。

七番目のものに、剋くされるときは、必ず、おなじ陰陽の相剋になります。

それゆえに、この相剋の姿を特別に七殺といっています。

「七番目のものに殺^{ころ}される」という意味で「七殺」と、名付けられたわけです。

おなじ相剋でも——[たとえば]牽牛星（陰）も金性です。牽牛星も（金→×木）と貫索星（陽）を剋くしますが、この場合は（陰）と（陽）の相剋なので、強い相剋ではないのです。陰と陽のあいだには（和）が生じます。

あるいは——車騎星が（金→×木）と石門星を剋くすることはできます。

ところが、七番目ではないので、強い相剋になりません。

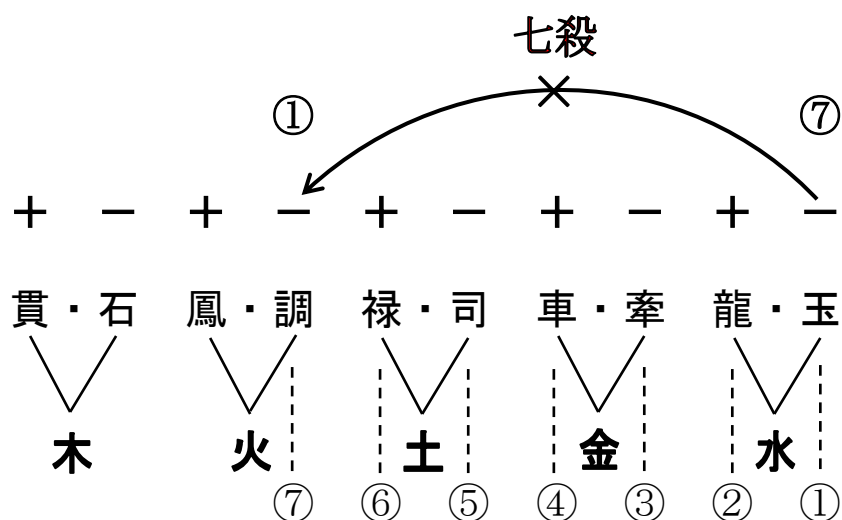
車騎星から6番目が石門星です。

七番目のものに剋されるときだけが、強い相剋になるわけです。

それで七殺（ななころし）という名称がついています。

☞ もう一つを練習で数えてみましょう……。

調舒星（陰）が、どの星に七殺されるのか、それを数えるときは、調舒星から数え始めて、① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ 七番目が玉堂星（陰）になっています。



玉堂星（陰）が七殺で、調舒星（陰）を剋くすときは、調舒星は七番目の星に剋くされていますから、七殺になります。

玉堂星は水性で、調舒星は火性ですから（水→×火）と水をかければ、火は消えてしまいます。

そして、玉堂星は陰の水性で、調舒星も陰の火性ですから、おなじ陰同士の相剋になっているわけです。

このように七番目のものに剋くされるときは、必ず、おなじ陰と陰、あるいは、陽と陽ですから〔最も強い相剋〕の七殺です。

「七殺」になっていると“相剋が激しすぎる”ので——その星の意味合いがまっとうに出なくなります。

星と星が真^まっ向^{こう}から衝突するような、激しい星のぶつかり合いですから、星の意味合いが出にくくなります。

相剋はやっつけるような関係ですが、そのなかにおいて七殺は一番強い相剋です。

〔たとえば〕人体図に車騎星と貫索星をもっていれば、「この人物は貫索星があるから“頑固”ですね」というふうに通常は観ます。

しかし——七殺されている貫索星ですから、この人物の“頑固さ”がストレートに出なくなるのです。

“まっとうには出ない”と、頭の片隅において、占っていきます。

☞ “まっとうには出ない”という意味は……具体的にはどのようなことなのか……それについては、いくつかの星の組み合わせせをやりませす。

40 頁 から参照ください。

☞ 七殺にもう少し付け加えます。

「強い相剋なので、その星の意味が出にくくなる」といいました。

この状態を“あえて”いうならば――、

「七殺される側のほうが、より出にくくなる」といえます。

(金→×木)の相剋は、貫索星が七殺されている側です。端的に言えば、やっつけられる側の星は、壊されてしまうわけです。

そうなる“星の意味合いが崩れてしまう”のです。

一番強烈な相剋なので、星の意味合いがチョット壊れてしまいます。

あるいは、(水→×火)の相剋だと、調舒星がもっている質の良さがまっとうに出ないとか、調舒星がもつ性質の出方がぎこちなく、不自然で円滑に出せないとか、そういうふうな意味合いになってしまいます。

これらにつきましては、具体的にはこの後、一つずつ、いくつか取り出して、説明をしていきます。40頁

ここまでの勉強は、「通関」と「七殺」という二つの言葉を、ぜひ頭に入れておいてください。

〔七殺は一番強烈な相剋〕

〔通関は相剋をやわらげてくれる〕

これらの意味合いを、ぜひ覚えておいて頂きたいのです。

⇒ 「八つの法則」を基^{もと}にしまして、【二星相関変化法】の意味合いが決まったわけです。

【二星相関変化法】に出てくる星の組み合わせは、55種類あります。

55種類すべての組み合わせをやりますと、非常に時間がかかってしまいます。

それゆえに、そのなかのいくつかに焦点をあてまして、「このような考え方をして観ていきますよ……」という説明をしていきます。

その考え方をご理解していただければ大丈夫です。

☞ **番号について：**

①〔貫索星〕と〔貫索星〕の組み合わせから入っていきませんが ① ② ③ ④ ⑤ などの番号は、55種類の順番ということでの番号ではありません。

あくまでも〔便宜^{べんぎ}〕のために付した 番号 です。

そのことをご了承ください。

1 貫索星と貫索星

	貫索星	
		貫索星

人体図に貫索星が2個ある人は、〔貫索星〕と〔貫索星〕の組み合わせをもっているということです。

貫索星が2個あるということは、頑固な星が2つあるわけですから“より一層頑固になる”と考えればよいのです。その星の意味合いが倍加する。ということです。

おなじ星が2個あるというのは一番簡単です。

おなじ星が複数あると、その星の意味合いや本能が強まると考えればよいのです。

- ・ 集団に与^{くみ}することなく、外見は利己主義的

集団に与^{くみ}しにくい、外見は利己主義的、という意味があります。これは貫索星本来の特徴です。

貫索星は、何事も自分1人で行おうとする星です。

本能は守備本能ですから、自分を守ろうとする本能がより強くなるわけですから、まわりから見れば、自分勝手な人に見られやすいのです。

それゆえに、まるで利己主義のような人に見えます。という意味になります。

2 貫索星と石門星

	石門星	貫索星

・ 孤独を保ちながら集団に入る

孤独を保ちながら集団に入るというのは、孤独というのは貫索星の質で、集団に入るのは石門星の質です。

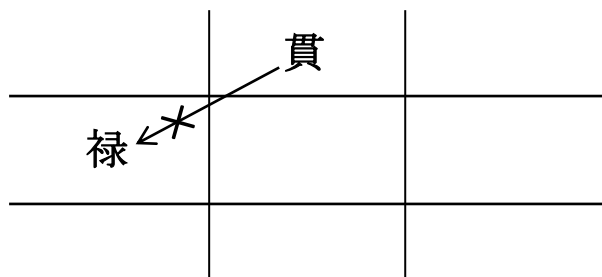
貫索星と石門星は（陽）と（陰）の組み合わせなので、二つの星の意味合いがまとまるわけです。

つまり（和）が生じます。

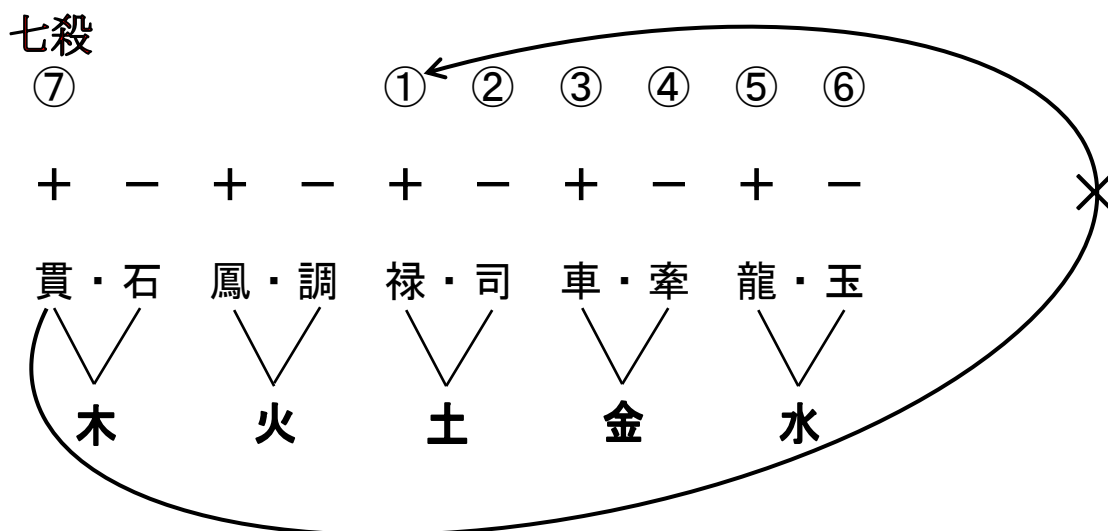
ですから「孤独を保ちながら、集団に入る」ともいえま
すし、「集団に入って個人を見失わない」ともいえます。

貫索星の単独行動、石門星の協調性、どちらの意味合い
も、両方同時に出ますよ。ということです。

3 貫索星と禄存星



(木→×土) と相剋ですけど、〔陽星〕 と 〔陽星〕 なので七殺の相剋になります。



禄存星がどの星に「七殺」されるのかを、確認の意味で上図を見てください。禄存星から数えて七番目を探します。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ の〔玉堂星〕にきたら、木性〔貫索星〕へもどります。⑦番目が貫索星です。

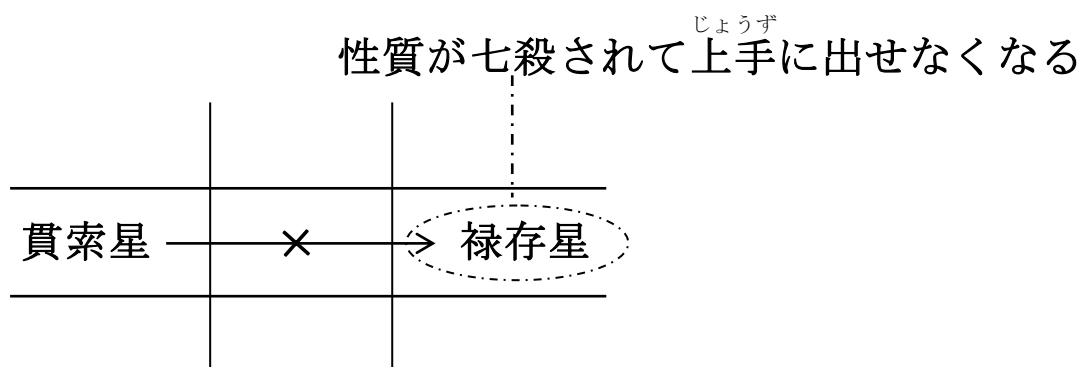
前頁の図のように……貫索星に（木→×土）と相剋されると、七殺になります。

これは非常に強い相剋だということです。

どちらかといえば……特に剋くされる禄存星のほうが、強い相剋でやっつけられます。

禄存星は本来、親切で優しい星ですが、人体図に貫索星と禄存星があると、七殺されて禄存星の性質が壊こわされてしまうわけです。

そのために、本来は親切で優しい人なのに、この性質がまっとうに出なくなったり、円滑に出せなくなったりするわけです。



禄存星の質が七殺されて、スッと出せなくなる

優しさをスンナリ出せなくなるということです。

それゆえに、人体図に禄存星もっていても、貫索星があると、人に親切で優しくするにも、チョットぎこちない親切、不自然なやさしさになってしまいます。

「他人になにかしてあげる」という親切を、自然に発揮できなくなります。

本質的に親切ですが、それを出そうとしても、ぎこちなく出てしまうために、演技や、腹芸はらげいをする人になってしまう。

そのようにも見られてしまうわけです。

演技や腹芸をする人となる

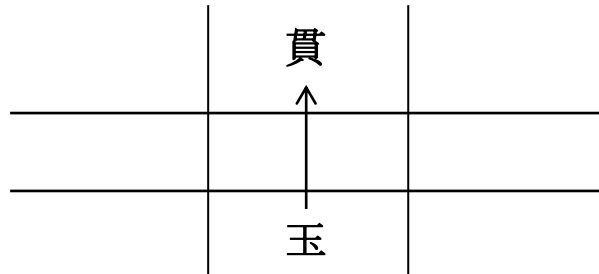
せっかく人に親切にしてあげても、なにかあの人って、
下心したごころあるんじゃない……と勘かんぐられて、せっかくの親切が相手に素直に伝わりにくい人になります。

本人はそんなつもりはないのですが、演技や腹芸をする人に見られてしまう、そのような意味合いになります。

〔貫索星〕と〔禄存星〕の七殺にかぎったことではなくて、ほかの星の組み合わせでも、七殺になっていたら、その星の意味合いが、スンナリ出せなくなるということです。

そのように考えていくわけです。

4 貫索星と玉堂星



・ 思考と意志の連結が容易

貫索星（陽）と 玉堂星（陰）には、守備本能と習得本能に（和）が生じます。意思と思考の連結が容易です。

意思というのは貫索星のことで、思考というのは玉堂星のことです。

玉堂星は知恵の星ですから、なにかを考える、学ぶことが好きで得意な星です。

貫索星は意志が強くて頑固な星です。

五行でいえば、貫索星は木性、玉堂星は水性です。

+ 貫（木）
- 玉（水）

この二つの星は（水→木）です。
（陰）と（陽）の相生になっています。

ここでの考え方は——（陰）と（陽）の相生になっていますから、二つの星の性質がとても良くまとまります。

- ・ 陰と陽で相生になる場合、
二つの星の性質が最もうまくまとまる。

陰と陽だけでも（和）が生じます。

それに加えて——相生にもなっていますので、この2つの星は、とてもうまくまとまります。

（お互いの性質を損なうことなくまとまります）

この姿は、ちょうど七殺と反対です。

七殺は、非常にまとまらない星同士の相剋です。

一番強い相剋ですから、星がまっとうに出なくなります。

（陰）と（陽）で相生になる場合には、星の性質がとても良くまとまります。

貫索星が頑固な星で、玉星が知恵の星です。

+ 貫（木）…… 頑固

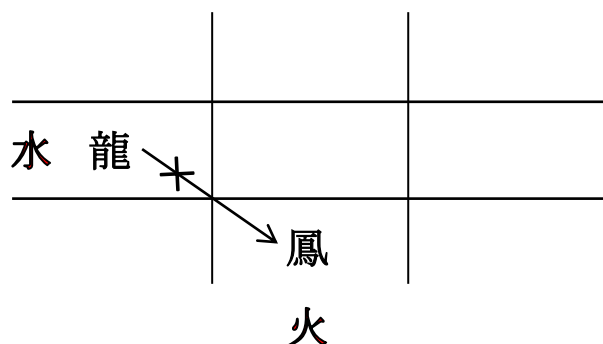
- 玉（水）…… 知恵

〔たとえば〕なにかの問題・なにかの事象、このことについて——頭ではわかっているけど、気持ちの上では、どうしてもそれに応じることはできない……このように自分の内奥ないおうにおいて、決心がつかないとか、相反する答えがでてくるとかで、どうしようと頭を抱えてしまう。そういうときもあるでしょう。

ところがです——玉堂星と貫索星が人体図にある人は、自分の頭で考えた事柄と、物事を成し遂げようとする想いが一致しやすいのです。

それゆえに、思考回路の抵抗もなく、順調に物事を決められるといえます。

5 鳳閣星と龍高星



鳳閣星が火の星で、龍高星が水の星です。

算命学では、水と火の組み合わせを、つぎのようにいいます。水火の激突（すいかのげきとつ）と呼称します。

「水火の激突」は非常に激しい星のぶつかり合いです。

水火の激突 水の星と火の星の組み合わせ

水の星と火の星の組み合わせを「水火の激突」といい、
〔龍高星・玉堂星は水〕〔鳳閣星・調舒星は火〕です。

星は人体図のどこにあっても構いません。

火の星と、水の星、この両方をもっていたら、この2星は混ざり合うことができないで、非常にはげしく激突し合う。「水火の激突」と考えてください

* 志村 けん 1950-2-20 [2020-3-29 没] 70 歳

	禄存星	天貴星
鳳閣星	龍高星	龍高星
天庫星	鳳閣星	天貴星

星同士が激しくぶつかり合う

水と火は自然界のなかでも「水は冷たい」「火は熱い」というふうに、水と火は、本来の性質が正反対です。

水と火だけは、絶対に混ざり合うことができない組み合わせです。彼は「4つ」が火と水で、芸の基^{げい}でも^{もと}あるのです。

水と火を無理に混ぜようとする、火のほうが消えてしまうか、あるいは、火のほうが強ければ、水が蒸発して無くなってしまいます。どちらかになります。

人体図のなかで、星同士が激しくぶつかり合って、火花を散らしているような、そういう状態が内奥^{ないおう}で行われるわけです。「水火の激突がある」という意味になります。精神の葛藤が大きいです。

精神の葛藤が大きい

〔龍高星〕と〔鳳閣星〕の二つが混ざり合えずに激しくぶつかり合うわけです。

星同士の激しいぶつかり合いが、心の内奥で行われるようなものですから〔常に心の中が落ち着かない・落ち着いてはいられない〕いつも何かしらの葛藤が渦巻いているような精神状態の持ち主になるわけです。

水火の激突がある人は、内面が複雑です。

内面が複雑



感性が鋭い

いつも水と火という、相反する性質を自分の内面に備えていて、自分でもどっちが、自分の本心なのか、見極めるのが難しい、そのような複雑な心の持ち主です。

それが、良いとか、悪いとかはないですよ。

感性が鈍い人は、葛藤も起きにくいです。

〔鈍感であれば、葛藤も起きにくいです〕

感性が鋭い、敏感だから葛藤が起こるわけです。

つまり、いつも胸中に「水火の激突があつて」心の奥底^{おくてい}で火花を散らして、ピリピリしているような、組み合わせをもっている人物——良くいえば感性が鋭いです。

そして「勘^{かん}」のうごきがいいものですから、いろいろなことに気がつきます。

些細なことにも、気がついたりしやすくなるわけです。相手の欠点に気がつくとか、相手の嘘に気がつくとか、そのような鋭さをもっています。

それゆえに、内面も複雑になるし、葛藤も起きてしまいます。そのような性格の人になる資質を備えています。

〔龍高星・玉堂星〕の五行は水性、五徳^{ごぎょう}は〔印^{ごとく}〕で知恵の星です。

〔龍高星〕と〔玉堂星〕では、知恵の出し方が違いますけど、どちらも頭をつかうのが得意な星です。

【十大主星特性②】〔鳳閣星〕〔調舒星〕では、芸術にも伝達の星が必要です。そのような意味があつたと思いますが、どちらも感性が豊かで鋭い星です。

知恵の星と感性の星の両方をもっているわけですから、
頭がよい組み合わせでもあります。

知能が高い人が多い

参考・感性 [心に深く感じること。なんらかの印象を感じ取る直観的な心
のはたらき]

それで「水火の激突」が、特に多い人を集めました。

つぎのページを見てください。 ➡

アインシュタイン 1879-3-14

丙 丁 己

申 亥 卯

	調舒星	天恍星
鳳閣星	玉堂星	玉堂星
天胡星	石門星	天恍星

志村 けん S25-2-20

丙 戊 庚

戌 寅 寅

	禄存星	天貴星
鳳閣星	龍高星	龍高星
天庫星	鳳閣星	天貴星

宅間 守 S38-11-23

(大阪池田小学校8人殺害)

庚 癸 癸

午 亥 卯

	調舒星	天報星
玉堂星	鳳閣星	司禄星
天恍星	調舒星	天胡星

林 真須美 S36-7-22

(カレー 砒素殺人)

丙 乙 辛

辰 未 丑

	司禄星	天印星
鳳閣星	調舒星	調舒星
天南星	玉堂星	天堂星

ヒットラー 1889-4-20

丙 戊 己

寅 辰 丑

	調舒星	天印星
龍高星	鳳閣星	調舒星
天貴星	鳳閣星	天南星

タモリ S20-8-22

癸 甲 乙

亥 申 酉

	鳳閣星	天胡星
石門星	玉堂星	龍高星
天将星	調舒星	天極星

岡村浩昌 S53-6-7

(てるくはのる)

庚 戊 戊

子 午 午

	龍高星	天恍星
調舒星	玉堂星	玉堂星
天極星	龍高星	天恍星

佐藤宣行 S37-7-15

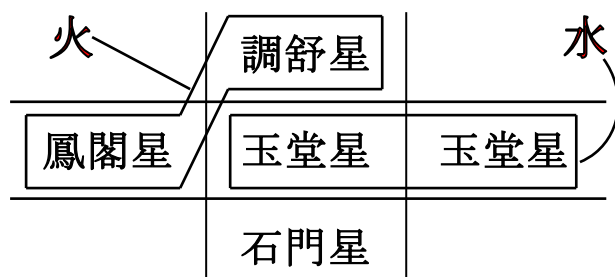
(新潟少女9年間監禁事件)

甲 丁 壬

寅 未 寅

	龍高星	天禄星
鳳閣星	調舒星	鳳閣星
天禄星	調舒星	天恍星

☞ アインシュタインの人体図をご覧になってください。



慣れてくると、人体図を見て、すぐに気がつきますが、
 鳳閣星 (火の陽) と 調舒星 (火の陰) 火の星が2つあります。
 玉堂星 (水の陰) 水性の星も2つあります。

人体図に載る十大主星は、全部で〔5つ〕しかないの
 そのなかの〔4つ〕が水火の激突になっています。

〔4つ〕が水と火になっています。

人体図の大半が水と火でできています。

この人体図の最大の特徴は、「水火の激突」だと考えるの
 です。

人体図に〔水の星1つ〕〔火の星1つ〕というように1個
 ずつあれば「水火の激突」です。それが人体図の特徴に
 なります。

アインシュタインは、水と火だらけの人体図ですから、

「水火の激突」が人体図の最大の特徴です。

このような人体図は、精神の葛藤が^{とくしゅつ}特出して大きくて、感性も非常に鋭く、知能が異常に高いという人物……というふうに考えます。

「何とかと天才は紙一重」といいますが、これだけ水と火で占められていたら、まさに紙一重の宿命になります。ものすごい天才になるか、もしくは異常な人になるか、どちらかになりやすいのです。

☞ ヒトラーを見てください。

ヒトラーは水と火だけです。〔5つ〕とも水と火だけです。ヒトラーは、天才なのか、異常人格なのか、紙一重の人です。

☞ 志村けんさんとタモリさん。

この二人も、二人とも火が二つ、水が二つです。

これも非常に頭のよい人です。

ばか殿をやっているのを見ると、頭悪そうに見えるかも

知れませんが、あれはもちろん演技なわけで、本質的にはすごく頭のよい人体図です。

お笑い・人を笑わせるというのは、ものすごく勘・感かんが鋭くないといけないでしょうし、頭も良くないといけないですよ。そのような仕事で「水火の激突」を活かすのも、一つの方法なのです。

アインシュタインのように、科学者になって頭の良さを活かすのもよいし、コメディアンになって、頭の良さをつかってもいいわけです。

絵画・音楽などの芸術の世界、さまざまな分野において頭の良さや感性の鋭さをつかってもいいわけです。

それをうまくつかえれば『逸材』いつざいです。

天才的科学家、あるいは、天才的コメディアンになれるという可能性を内在しています。

天才的政治家でも、天才的芸術家でもいいわけです。

⇒ その頭の良さとか、感性の鋭さを発揮できなくても、心の葛藤も、内面の複雑さも、感性の鋭さも、なくならないのです。葛藤、情熱、鋭敏な感性など発揮して……

学問なら学問にぶつけてしまえば、人間としては正常な人になります。

ところがです——頭の良さ、感の鋭さを生かせないと、精神の葛藤が大きすぎるものですから、悪いほうへ出てしまうことがあります。

一番可能性があるのは病気です。

しんちゅう
心中・心の底では、いつもすごい葛藤が渦巻いていて、それが強くなりすぎると、そのことに起因して内臓を悪くします。

消化器をやられたり、心肺機能をやられたり、不整脈とかの症状に起因して、心臓が弱ったりとかです。

精神の葛藤が強くなりすぎると、まずは体を壊すことが多いです。

☛ 「水火の激突」には、もう一つの出方があります。

普段から、水火の激突を活かしていないと、頭がよいものですから、とんでもない事をしでかします。

とんでもない事を思いつく……そういう人になってしまうこともあるわけです。

㊦ 54 ページには 4 人の犯罪者の宿命が書いてあります。

宅間守の人体図にも、水と火が〔4 つ〕あります。

大阪の池田小学校で小学生 8 人殺した人物です。

小学校に入って行って、小学生ばかり 8 人殺す。

普通であれば、思いつかないでしょう。

「水火の激突」を良いほうに活かせないと、普通の人には“とてもできない”……とんでもない事しでかす人間になる可能性があります。

岡村浩昌「てるくはのる」——彼は水と火だけの人体図です。京都の小学校に入って行って、小学生刺し殺して、自分も走って逃げて自殺した人物です。

小学校に入って行って、小学生を殺害したのは、こちらが先です。

多分、岡村浩昌のした事をヒントにして、宅間守がおなじことをやったのではないかと考えられています。

林真須美——ヒ素混入のカレー殺人

彼女の人体図も、水と火が〔4つ〕占めています。

風貌はあのように見えますが、非常に頭のいい人物です。

しかし、人格は全く別ですので、せっかく頭がいいのに、その頭の良さを活かすための“生き様”が出来ていないと、備えもっている知恵を、とんでもないところで発揮するようになってしまうわけです。

町内会のお祭りで食べるカレーにヒ素入れる——思いつかない
ですよね。思いついたとしても、なんのために町内会のお祭りに、
そんな事をしなきゃいけないのか？

宅間は小学生を8人殺しています。なぜ、あのような惨事を起こさなければならないのか——“頭の良さを活かせていない”と、普通の人間の感覚とは、まったく異なる感覚の人間になってしま
います。

宅間守、林真須美について“頭が良い”とっていますが、この頭の良さというのは、学校の成績が良いというのとは全然違うのです。おそらく学校の成績は悪いでしょう。

学者になれるくらい成績が良くて、知能を活かさせていたのであれば、あのような事件を起こさないといえます。ひょっとしたら、アインシュタインほどの科学者になれる可能性をもっている人体図です。

佐藤宣行——この人物は、新潟の女の子を9年間監禁した犯人です。水と火だけの人体図です。

小学生を自宅に連れて来て9年間も監禁するというのは、普通思いつかないし、どう考えてもこれは異常です。

このような人体図の人物が、なにか有意義な目的意識をもって、その目的にその知能を発揮していたら、見事な人間になるのです。

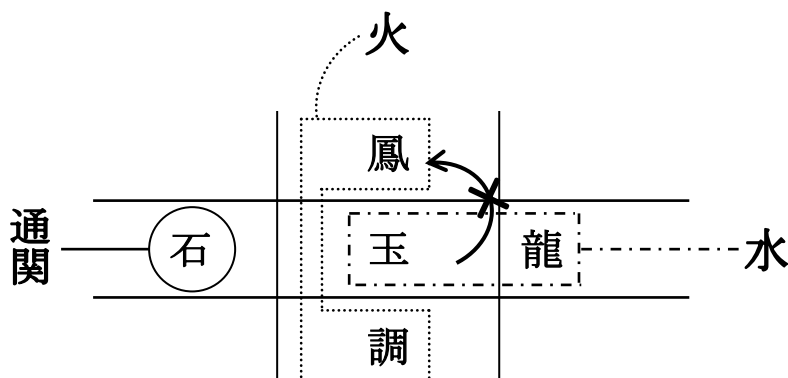
しかし、せっかくの頭の良さを、意義のある目的につかわないで、無価値どころではない、とんでもない犯罪に、頭をつかう人間になってしまったわけです。

良く発揮できれば見事です。

人体図の姿を、まったく生かせていない状態であれば、近寄らないほうが懸命ですね。

㊦ 54 ページに「タモリさん」の人体図がありました。

タモリ



人体図は「龍高星」「玉堂星」は水性です。

「鳳閣星」「調舒星」は火性です。

「石門星」の木性が1つあります。

この人体図は、水性が2つ、火性が2つありますから、相剋になっていて「水火の激突」があります。

このときに、「石門星」の木性が1つありますから——

(水→(木)→火) と、相剋を相生に変えてくれます。

木性の(通関)が『相剋』を和らげる役目をします。

タモリさんの場合は「石門星」が通関になっています。

通関の役目が効いてくると、「水火の激突」も収まってくる。というふうに考えるのです。

——まだ勉強してはいないのですが ……。 ➡

タモリさんは、水火の激突で星が発する閃^{ひらめ}き、頭の鋭さをコメディアンとか、司会者として活かしたわけです。彼はすごく勘がいいですよ、パッと思いついたことを、さっと言葉にして表現する、というのがとても上手な人だといえます。

しかし、妻と一緒にいるときは、その勘の冴えが鈍ります。〔よろしいですよ、やすらぎですよ〕

〔たとえば〕タモリさんの妻、野村監督の妻（すでに他界しました）とかのようであれば、出しゃばりの妻で、仕事にも、TVにも妻が出しゃばってきたら、タモリさんの頭が悪くなります。知恵がまわらなくなります。妻が出てこないほうが、この人の感性は研ぎ澄まされるわけです。このように考えます。

この人が、特に感性を活かすような、知能をつかう仕事ではなくて、何か仕事をしているのであれば、妻が一緒でも構わないと考えます。

☞ 通関はこのように観ていくようになります。

☞ アインシュタインは、第二命星の子供の場所にある
〔石門星〕が通関になっています。

アインシュタインは、離婚で子供と離別したそうです。
その後に、子供は気が狂って、精神病院で亡くなったそ
うです。この人はユダヤ人ですので、第二次大戦の勃発
で、ナチから逃れるために、アメリカに亡命してきたと
き、子供を置いてきたそうです。この人の場合、子供が
犠牲者になってくれたので、天才的科学家になれたとも
いえます。子供がいて、子煩悩なお父さんをやっていた
とすれば、頭は鈍ります。感性が鈍くなります。
これも通関の観方です。

☞ 昨今は、世の中で変な事件が多いです。

宿命を出してみると、異常な事件を起こす犯人は、こう
いう宿命がとても多いです。

〔水火の激突〕をもっていて、天才的な才能を発揮する人も多い
わけですが、それとは反対に、異常な犯罪を引き起こす可能性も
横たわっているわけです。宅間、岡村、林、佐藤、4人の宿命を
見て頂くとわかるように、特に〔4つ〕以上〔水火の激突〕が
あって、なおかつ、4人とも通関がないです。

それゆえに「水火の激突」をやわらげることはできません。

そうであっても「陰占」を観れば、通関がまわって来る時期があったかもしれません。「陰占は、陽占のあとで習います」

この人たちは、本来生れもった知能は大変高いです。

算命的には、知能が高いから犯罪者になるともいえませんが、その知能をまっとうな姿として、生かせないために、残虐な事件を起こすようになってしまうわけです。

「水火の激突」をもつ全ての人が、犯罪起を起こすわけではありませんよ。そして、「水火の激突」だけが、犯罪を起こした全ての要因だとはいえません。ほかにも理由はありますよ。しかし、諸刃の剣みたいなもので、よく出るか、悪く出るか、それによって、これだけ大きな差がでてしまうというわけです。

まさに、紙一重みたいな人体図だといえるでしょう。

【初年】 36 回目【二星相関変化法①】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 37 回目【二星相関変化法②】 です。